

関係各位

令和5年度「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会（ご案内とお詫び）

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

本研修事業では、脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士（PT・OT・ST）等が、専門的な知識や技術を学び、より適切な支援を行えるよう養成することを目的に研修会を開催しております。

令和5年度は「肢体不自由児者のポジショニング」をテーマとし、理学療法・作業療法・言語療法の各テーマについて、以下のように年3回にわけて実技を中心としたプログラムの研修会を開催する予定としております。

記

令和5年度「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会

日 時：（第1回 理学療法）令和5年12月2日（土） ※開催終了
（第2回 作業療法）令和6年1月13日（土） 10：00～16：50
（第3回 言語療法）令和6年2月17日（土） 10：00～16：50

会 場：神戸臨床研究情報センター（TRI）

定 員：24名

受講対象：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の有資格者

参加費：コース① 4,000円・・・（第1回～3回）3回セット
コース② 2,000円・・・（第2回）「作業療法」のみ・（第3回）「言語療法」のみ

申込方法：今年度のお申込み受付は終了いたしました。

《お詫び》

本研修事業に関して、上記のように参加者を募集する予定としておりましたが、広報第1弾、広報第2弾において当初の想定を大幅に上回るお申込みをいただく状況となりました。特に第1回～3回までの連続参加での申込数が多く、選考の結果、すでに定員数が満席となったため、コース②での募集が困難となりました。申込をお待ちいただいていた方もおられたことと存じます。ご案内が大変遅くってしまったことを心よりお詫び申し上げます。

なお、来年度につきましても同様の研修会を開催する予定となっております。（募集要項については変更の可能性があります。）広報の際には、改めてご案内させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター 事務局
TEL 06-6481-5565 / E-mail amariha.pos@gmail.com

【参考】

令和5年度「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会 講義内容

≪ 第2回 作業療法 ≫

【第1部】講義①「変形・拘縮に対する医学的介入」

脳性麻痺における変形は、麻痺、筋の不動、筋バランス不良、成長障害などによって生じる。変形には、動的変形と静的変形(拘縮)があり、放置すると進行する。変形は姿勢不良や運動障害、疼痛を引き起こし、脊柱側弯症の様に生命予後に関わることもある。介入手段としては、リハビリテーション、装具療法、手術、薬物療法があるが、年齢や重症度によって適応が異なる。講義では主に医療的介入について紹介していく。

講師 柴田 徹 氏 (兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター センター長 医学博士)

【第2部】講義②・実技「環境に適した座位でのポジショニングから上肢活動まで」

肢体不自由児・者の座位姿勢においては、その障害の部位や程度、特性に応じた対応が必要となる。さらに安静時の安楽姿勢や活動時の抗重力姿勢など、その目的により多様なバリエーションがある。この講義では、一般的な座位姿勢とシーティングの基礎を踏まえ、見る・触る・操作するなど上肢活動に応じた座位ポジショニングの具体例について、実技を通じて体験しながら考察する。

講義 開発 基文 氏 (関西総合リハビリテーション専門学校 作業療法士)

≪ 第3回 言語療法 ≫

【第1部】講義①「障害児・者に対する社会福祉制度と支援体制」

地域で障害児・者の看護、介護、リハビリテーションに関わるときに知っておくべき福祉制度や支援体制について学ぶ。障害福祉サービスの概要や障害者権利擁護などの概略を理解する。

講師 兵庫県 福祉部 障害福祉課

【第2部】講義②・実技「食事に適したポジショニングと介助方法」

食事はコミュニケーションと認知機能の発達や維持に関わる。また、粗大運動機能や知的発達の遅れが重いほど食事の持つ意味は大きい。摂食嚥下機能は姿勢運動と密接に関連している。脳性麻痺、肢体不自由児(者)は成長、加齢に伴いその機能は変化しやすい。

成長、加齢に沿った食事支援をするために必要な視点を学ぶ。よくある姿勢とそのときの食べ方、飲み方を知ると共に、食事時のポジショニングと介助方法を実習する。

講師 山名 由香里 氏 (一般社団法人 兵庫県言語療法士会 言語聴覚士)